

# 照陽の家だより

平成30年 11月15日

〒683-0812

米子市角盤町3-124-3

TEL 0859-21-8151

(施設長) 三代富士子

秋晴れの好天气が続きます。穏やかな秋日の中で照陽の縁側に座ってのお話はさほど話題はなくとも心が満たされるものです。さて、先日、認知症の症状が急速に進行した90歳過ぎの男性の方が照陽の家を利用される事になりました。この方は長年会社の要職にあり何でもバリバリ出来る方、活躍された方でした。お人柄も良く以前、認知症と診断された頃にお会いすると「僕ねえ、困った事が起きてね。認知症という病気になって散歩すると帰れなくなるんだよ」と明るい声でおっしゃっておられました。結婚して60年以上、奥様との二人暮らし。多くの苦楽を共にした奥様はあんなに立派だった夫の変貌ぶりに悔しさと情けなさで心がズタズタになられました。トイレの場所も分からない、今がいつかが分からない、自分が妻である事も明確ではない夫に向ける顔はいつも複雑で怒り顔、心休まる暇もない生活となりました。ある日、担当CMが訪問すると御主人は顔が腫れあざもあり何より不安そうな表情でした。奥様は自分の心のコントロールが出来なくなっている事を感じていても、もうどうして良いか判断が出来ない世界におられ、さらに暴言や暴力がエスカレートするようになりました。遠距離介護をする家族様と関係者が集まりこの状況をリセットするために一度お二人を離しそれぞれの環境をとご主人は照陽の家を利用される事になったのです。アルツハイマー型認知症は進行性のため元に戻る事はない病気です。このご夫婦がお互いを忘れていく先にある世界が空白であったとしても記憶の壺の中には懸命に昭和の時代を手を取り合って生き抜かれた輝かしいお二人の姿が私達には見える気がしています。年老いて認知症という病気になりそこに舞い降りた悲喜こもごもがまたお二人の人生なのだと思えます。そして、願わくばいつか住み慣れたご自宅で地域の方々の理解の中、安心出来る環境が用意され「共に在る」生活に戻れる事を祈りつつ、支えていきたいと思えます。



照陽の家は住み慣れた地域において、高齢者の方、お子様、地域の方、誰もが集い、多様なサービスや活動の中で支え合う拠点です。



## 照陽の家の日常とひなたぼっこ保育園



ふれあいの里に遊びに行くと西保育園の3歳児と出会い一緒に遊んでもらいました！

壁に紙を貼りペインティング遊び！ダイナミックに絵具で描きました☆



花回廊で秋の清々しい風を浴びながら華麗な花から元気を頂き今日も一日素晴らしい日を過ごすことが出来ました。



子供たちとおばあちゃんどで春に植えた薩摩芋を収穫しました。今年も子供の頭より大きな薩摩芋が取れました。「重たくて持てない〜」「ここにもあった〜」と大きな声ではしゃぎながら土に触れる楽しさを感じていました。

照陽の家には訪問看護ステーションハートケアがあります。

訪問看護とは看護師がご自宅を訪問し、看護ケアを提供し、療養生活を支援するサービスです。

### 訪問看護ステーション ハートケア

私は6月から2カ月に1回認知症と家族の会の方々が主催される「にっこりの会」という集まりに作業療法士として参加させて頂いています。当事者、家族、地域の方と一緒にわだや小路さんで調理や会食をしたり、妻木晩田遺跡でウォーキングをしたりなど普段の業務とは違った体験をさせて頂いています。その中にはご夫婦で参加されている方も多くおられます。午前と一緒にアクティビティーに参加されるのですが午後は家族の方、当事者の方で分かれ当事者の方は作業やゲーム、家族の方はご自宅での介護や関わりでの悩みを相談されたりとしています。私はその中で当事者の方とゲームをすることが多いのですが男性の方で午後から支援者である奥様がおられなくなると少し落ち着きがなくなったり不安な表情を浮かべておられる方が何名かおられました。しかし奥様が戻って来られると素敵な笑顔を見せ安心された表情で手を握ったり落ち着かれたりとする場面を何度か拝見しました。その時に家族、支援者がもたらす当事者の方への力の大きさを実感しました。にっこりの会を通してその場面が印象に残っており、自分も仕事をしている中でスタッフと利用者さんの中での関わりだけではなく、家族と利用者さんを繋げてあげる必要性を学ぶことが出来ました。またこれから認知症と家族の会の方々と関わっていく中で新しい発見が出来るのが楽しみです。

作業療法士 岡野元明

### 今月の言葉

人は決して 一人だけで生きてはいない 自分のためだけに 生きているのではない

人は皆、誰かのために 生きている 誰かのおかげで 生きている

～葉 祥明～